

<新刊紹介>

松田 誠祐・著「集中豪雨へのアプローチ」

関 健太郎（高知工科大学システム工学群 准教授）

本書は、松田誠祐高知大学名誉教授がライフワークとして取り組まれた「集中豪雨に関連する研究」について、これまで著者が書かれた論文を中心にまとめられ、(株)高知新聞総合印刷より出版された著書である。著者がライフワークとして集中豪雨の研究を始められたきっかけは、1975年7月の台風5号等の災害調査に参加され、「豪雨の破壊力と甚大な被害に驚愕し、どの程度の規模なのか、これ以上の規模の豪雨が起こりえるのだろうか知りたい」という思いがきっかけだったと記されており、その思いが感じられる著書である。

本書によると気象学的には集中豪雨の「量的な定義はない」ため、著者は気象学にこだわらず集中豪雨を「適当に選んだ、ある代表時間の平均降雨強度に対する単位時間降雨強度の比」を「時間的集中度」、
「適当に選んだ、ある代表面積の平均降雨強度に対する単位面積降雨強度の比」を「面的集中度」と定義し、「集中豪雨」へのアプローチが行われている。

本書は、これまで著者が取り組まれてきた研究の論文を中心に、3編構成となっている。第1編第1章は著者の退職記念講義録が記されており、第2章は水文統計的「集中豪雨」が定義され、第3章は今後の課題が述べられ、第4章は数値計算に必要な数式がまとめられている。第2編は「集中豪雨へのアプローチ」の背景となった豪雨・降雨・降水の「時間集中度」に関する8編の論文が記述されている。第3編は豪雨の「面的集中度」に関するDA(depth-area)解析の3編の論文が記述されている。

[ISBN 978-4-906910-06-9・217頁・1,905円＋税・2012年11月15日刊・(株)高知新聞総合印刷]

